

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 198

2007年

9 ~ 10月号

行 事 案 内

9月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 9月9日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 秋の渡りの季節です。カモ達もそろそろ姿を見せてくれるでしょうか。コガモ、マガモは来ているかな。注意して観察しましょう。
解 散 正午
担 当 北原、佐々木、松田、桑森、小林(寿)、野口(紀)

信州松本 白樺峠タカの渡り探鳥会 (再掲)

期 日 9月22日(土) ~ 23日(日)
集 合 我孫子駅北口 午前8時
交 通 今井観光バス
宿 舎 奈川温泉 野麦荘
Tel: 0263 79 2011
費 用 21,000円(交通費、宿泊費等)
案 内 標高 1,700mの白樺峠のタカ見の広場は、北東から南東にかけての眺めがよく、目の前の山並みから湧きあがるように現れるタカの姿を楽しめます。
持 物 観察用具、防寒具、昼食(途中購入可)
申 込 定員 20名 猪爪敏夫まで
Tel/Fax: 04 7186 5075
担 当 猪爪、桑森

10月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 10月14日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 秋の活動的などとても良い季節です。カモ達もそろそろ手賀沼に帰ってきている時期です。手賀沼は久し振りという方も思い切って足を運んでみませんか。冬場とは違った感覚で手賀沼の野鳥観察を楽しみましょう。
解 散 正午
担 当 佐々木 松田 桑森 北原、小林(寿)、野口(紀)

手 賀 沼 ク リ ン 作 戦

期 日 10月14日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午後1時30分
(10月手賀沼探鳥会の午後です)
案 内 手賀沼周辺のゴミを集めます。清掃場所は柏市沼南側の探鳥ポイントを中心に行います。環境保全の一助です。多数の参加をお願い致します。終了は午後3時ごろを予定しています。(軍手、ゴミ袋は事務局で用意いたします。火ばさみのある方はお持ちください)
担 当 染谷と事務局

第7回ジャパンバードフェスティバル

今年も我孫子市において11月10日(土)、11日(日)の2日間に亘りジャパンバードフェスティバル(JBF)が開催されます。親水広場(水の館)、手賀沼公園、我孫子市鳥の博物館等が会場です。メイン会場は親水広場と手賀沼公園ですが、学生、NPO 団体、光学器械関係は手賀沼公園会場の予定です。

当会の展示ブースは手賀沼公園会場です。当会の展示内容については以下ようになります。9日(金)は当会の展示ブースの準備・設営を行いません。お手伝いできる方は当日、手賀沼公園会場にお越しください。

[当会のイベント]

手賀沼公園会場：パネル展示、紙芝居、庭に鳥を呼ぶ、えさ台の販売

親水広場会場：噴水前定点バードウォッチング、船上バードウォッチング

他の団体のイベントについては、広報あびこの10月16日号もしくは11月1日号をご覧ください。会員の皆様のお手伝いをお願いします。担当：幹事全員と会員

行事報告

6月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2007年6月10日 9:00~11:30

曇りのち雷雨・弱風 気温 24

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、オオバン、タマシギ、コチドリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計 29種 番外：カワラバト

<探鳥班> 宮下三禮、小口勝久、西巻実、榎本右、北原建郎、桑森亮、中野久夫、常磐考義、木村稔、谷山晴男、間野吉幸、大久保睦夫、猪爪敏夫、田丸喜昭、佐藤弘美、類地佑子、染谷迪夫、石渡成紀、島崎純造、片桐邦夫、松田幸保、田中功、天野正臣、天野道行、天野睦子、天野かな枝、佐々木隆、中島正義、諏訪哲夫、吉田隆行、鈴木静治、伊澤敏和古出洋子、六角昭男、野口紀子、野口紀

恵、小川克子、太田暁子、小玉文夫(担当)
飯島博 参加者 40名

<カウント班> 木村稔、北原建郎、佐々木隆、田中功、染谷迪夫

調査日時 2007年6月13日 13:30~
16:00 晴れ、気温 30、東南東の風

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	5	2	7
カワウ	36	25	61
アマサギ	0	18	18
ダイサギ	1	1	2
チュウサギ	0	5	5
コサギ	0	1	1
アオサギ	4	3	7
コブハクチョウ	8	9	17
カルガモ	13	0	13
オオバン	2	1	3
合計	69	65	134

7月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2007年7月8日 9:00~11:40

曇り後晴れ 微風 気温 26

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、トビ、オオタカ SP、キジ、オオバン、コアジサシ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 32 種
番外 カワラバト、コジュケイ

<探鳥班> 田丸喜昭、諏訪哲夫、北原建郎、大久保陸夫、野口隆也、谷山晴男、川田光男、宮下三禮、小川克子、太田暁子、中野久夫、間野吉幸、松本勝英、松本葉子、川村美智子、美恵子美恵子、小口勝久、西巻実、榎本右、西嶋昭生、西嶋みどり、常盤孝義、類地佑子、猪爪敏夫、片桐邦夫、古出洋子、山田哲生、天野正臣、佐藤弘美、野口紀子、鈴木静治、(担当) 桑森亮 参加者 32 名

<カウント班> 木村稔、佐々木隆、染谷迪夫

調査日時 2007年7月8日 9:30~12:00

曇り、気温 23、南東の風

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	7	3	10
カワウ	14	37	51
ヨシゴイ	0	2	2
ゴイサギ	7	0	7
ダイサギ	1	1	2
チュウサギ	3	1	4
コサギ	0	2	2
アオサギ	1	3	4
コブハクチョウ	9	0	9
カルガモ	0	2	2
オオバン	2	4	6
コゲラ	0	3	3
コアジサシ	0	39	39
合計	44	97	141

花貫溪谷・里美牧場 探鳥会

6月2日、3日

ガビチョウのさえずりが

佐々木 隆

参加者 12 名が 3 台の乗用車に分乗して我孫子駅北口を 7 時にスタートした。圏央道・つくば牛久インターから高速へ入り、つくば JCT で常磐道に合流し、友部 SA にて休憩後に日立北インターで高速を降り、花貫ダム駐車場へと向かった。最初の探鳥ポイント同駐車場周辺ではダム湖対岸にオシドリを見た。その後花貫溪谷へと向かうが、目立った成果は得られなかった。そこからいよいよ宿泊地でもある里美牧場へと向かった。細い道を 30 分くらい走ると里美牧場の看板があり、右折して今晚の宿泊先プラトー里美を目指した。あまり牧場らしくない広い敷地の中、風力発電機を車窓にわずかばかりの野鳥の鳴き声を聞きながら、急な丘の道を上り詰めるとプラトー里美に到着した。

第 2 駐車場で昼食後、牧場周辺への午後の探鳥開始。最初は緩やかな下りでカッコウやキビタキ他の声を聞きながら釣堀へと向かった。釣堀へと曲がる手前のポイントでは何やらさえずりが聞こえる。距離があって姿の確認が取れない。10 分ほど探すと道路反対側からメスらしきが鳴き声のポイントへと飛んでいった。その瞬間からさえずりはピタリと止まった。あきらめて釣堀へと向かう。田丸さんの説明では釣堀向い側のダム湖に昨年はオシドリが居たという。何人かがダム湖まで行ったが、オシドリを確認できなかったようだ。代わりにアカゲラを見たという。ここまでが下りで、ここからはプラトーへの帰路は厳しい上りとなる。予定では車で搬送される事になっていたが、部分的に車の世話になりながらも何とかプラトーまで徒歩で上りきってしまった。ビールを美味しく飲みたいからなのか。メンバーのパワーに脱帽。

まだ 15 時前。チェックインまでの間、私は柴本さんと風呂場へ。風呂から上がると他の 10 名は食堂でビールを味わっていた。2 名も加わってビールを飲みながら、担当の小玉さんより部屋割りやその後の予定を聞く。18 時の夕食まではフリーとの事なので柴本

さんと散歩に出る。風車のある集会場からなんとロール式の滑り台があった。童心に戻って二人とも滑った。プラトーンに戻ってしばらくうとうとしていると、カッコウが至近で見られるとの事。双眼鏡を持ってその場に行くと、ぱっちりカッコウを捉えることができた。

夕食は乾杯に始まり野鳥談議に話が弾み、しばしの懇談。夕食後は幹事部屋にてサロンタイム。ここでも本日の成果や明朝の探鳥に思いをはせて、野鳥談議が沸騰した。そして今回はさすがに疲れの為かサロンタイムは早めのお開きとなった。

2日目早朝、4時半頃には皆が玄関前に集合していた。昨日とは逆周りでまわった。昨日の未確認さえずりポイントにて再挑戦するもなかなか確認できない。やっと北原さん、桑森さん、鈴木静治さんによりガビチョウである事が確認された。この他、ノスリ等も確認され、朝飯前の探鳥としては上々の結果だった。その後プラトーンまで戻り、朝食をとる。

朝食後は牧場周辺で3回目の探鳥。昨日と早朝に行っていない所を重点に車で回る。思ったほどの成果はあげられない。その後キャンプ場にてトイレ休憩。休憩後、沢の方に入るとミソサザイの声が聞こえる。北原さんが橋の手前に居るのを見つける。12名の視線を感じてか、動きが早い。我々が近づくと遠ざかってしまい、ほんの数分で視界から消えてしまった。しばし探鳥の後里美牧場を後にして、里美物産センターへと向かう。30分ほど走った所で到着。昼食のそばをいただく。その後買い物などをして、鳥合わせをした後13時過ぎには帰途に着いた。

今回探鳥会の基本計画の田丸さん、実施責任者の小玉さん、会計担当の北原さん、お三方には2日間を通して運転もやって頂き、本当にお疲れ様でした。そして参加の皆さんがそれぞれに個性豊かで、楽しい1泊探鳥会を過ごすことができました。ありがとうございました。

【幹事報告】

<認めた鳥> ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、オシドリ、カルガモ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジ、キジバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モ

ズ、ミソザザイ、ウグイス、エナガ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計39種（番外）ガビチョウ

<参加者> 宮下三禮、天野正臣、北原建郎、佐々木隆、吉田隆行、桑森亮、鈴木静治、柴本三弘、田丸メリールイス（担当幹事）田丸喜昭、染谷迪夫、小玉文夫 参加者12名

飯岡・笹川探鳥会

6月24日

コアジサシのコロニー！

卵がつぶされないか心配

石渡 成紀

この会に入って未だ1年。初心者である。それだけに、探鳥会ではいつも何か新しい発見ができるので、参加するのが楽しみだ。

今回は、飯岡のアジサシ、笹川のオオセッカやコヨシキリがお目当てである。天気は前日の真夏の暑さから一転して薄曇り、過ごしやすい探鳥日よりとなった。総勢23名、いつものように、我孫子から6台の車に分乗し出発。およそ2時間半後の10時半、最初の目的地・飯岡漁港に到着。

車を降りて、漁港の先端にある砂浜に向かう途中、ブッシュの中にセッカやヒバリを見た人もいたが、私には感度が鈍いせいか確認できない。しばらく行くと上空にコアジサシの群れが飛び回っている。その下の砂浜に近づいてみると、数メートル先に数カ所、窪みを作って卵を2個位ずつ産卵してあるのを確認。その周囲には、全体が白っぽく嘴が黄色いコアジサシが歩き回り、また抱卵しているのも観察できた。どうもここは、コアジサシのコロニーらしい。そのうち、シロチドリも飛来し砂浜を素早く歩き回る。コアジサシの群れの中には、嘴が黒いアジサシがいるというが、なかなか見分けがつかない。ここを引き上げる直前になって、スコープで捕えたアジサシを見せてもらい、やっとはっきりと黒い嘴を確認することができた。

コアジサシはここで繁殖し、8~9月に南に帰る渡り鳥で、近年は繁殖地が埋め立て等

見せました。朝霧高原に着く頃には青空が広がり、セッカの鳴き方などを小林秀美さんに教えてもらったり、皆さんに単眼スコープでセッカ、ホオアカなどの鮮明な姿を見せていただいたり。可愛い野鳥と自然を満喫した二日間でした。

今回誘ってくれた東京組の皆と、温かく迎え入れてくれた我孫子の皆さんに感謝しています。楽しい二日間をありがとうございました。

【幹事報告】

日時 2007年7月21日～22日

天候 晴れ時々曇り

<認めた鳥> トビ、ノスリ、キジ、キジバト、ホトトギス、ヨタカ、アマツバメ、ツバメ、ピンズイ、ミソサザイ、カヤクグリ、ルリビタキ、ノビタキ、ウグイス、セッカ、メボソムシクイ、キクイタダキ、ヒガラ、シジュウカラ、ホオジロ、ホオアカ、カワラヒワ、イスカ、ウソ、イカル、スズメ、ホシガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 29種
<参加者> 井上正、天野正臣、天野睦子、猪爪敏夫、野口隆也、大久保陸夫、鈴木静治、中野久夫、中西榮子、吉田隆行、桑森亮、西巻実、染谷迪夫、小玉文夫、宮下三禮、小林寿美子、古出洋子、柴本三弘、柴本法子、清岡万紀子、小林秀美、横濱由利、佐々木隆（担当幹事）間野吉幸、諏訪哲夫
参加者 25名

映 写 会

7月28日

恒例の映写会を7月28日水の館1階のビデオルームで開催した。今年は手賀沼流域フォーラムへの参加イベントとして実施した。14名の方から438点の写真とビデオ1点の発表があった。参加者は30名で内会員は21名であった。

今年のデジタル写真はペルー、ヨーロッパ、ニューヨーク、台湾と昨年同様国際色豊かであった。国内も北海道、沖縄、東北と広域で会員の活動範囲の広がりが伺えた。

手賀沼流域もことしは例年には見られないキレンジャク、ヒレンジャク、ウソの写真

などが多く、力作揃いであった。

（発表者と発表点数）

- ・松田幸保：ビデオ（ヒレンジャク、キレンジャク）
- ・井上 正：クロウタドリ、ズアオアトリ、ニシコクマルガラス等 40点
- ・吉田隆行：トラツグミ、サンカノゴイ、ホシガラス等 40点
- ・桑森 亮：アメリカヒドリ、シノリガモ、ルリビタキ等 40点
- ・首藤佑吉：奥日光の樹木 9点
- ・西巻 実：ブッポウソウ、アオシギ、オオコノハズク等 40点
- ・川上 貢：カンムリワシ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ等 40点
- ・大久保陸夫：ズグロミソゴイ、キレンジャク、セッカ等 40点
- ・中西榮子：ズアカアオバト、ヨタカ、タンチョウ等 20点
- ・中野久夫：ヤマガモ、ワシノスリ、ヒメコンドル等 40点
- ・田中 功：アカショウビン、ミソサザイ、コミズク等 40点
- ・野口幸子：庭のシジュウカラ 9点
- ・野口隆也：ゴイサギ、ホシガラス、メボソムシクイ等 40点

（諏訪哲夫）

ホタルの夕べ

8月5日

日 時 平成19年8月5日（日）

曇り気温 30 高湿度

集 合 東我孫子駅前午後7時

（観察時間午後7時～8時）

場 所 岡発戸・都部谷津（主にホタル・アカガエルの里付近）

我孫子野鳥を守る会と鳥博友の会の合同行事として行なわれました。夕方から夜にかけて、千葉県北西部は雷・大雨注意報が出ていて、上空曇り空で何時、雨が落ちてくるか判らない不安定な中で実施したが、蒸し暑い夜だったので、ホタルがよく出てくれるのではないかと期待した。（前日、140頭出たとの報告があった。）案の定、159頭、出てくれた。以前までは、参加者がホタルを探していたが、今回はホタルの方から出てくれた。

今、岡発戸・都部の谷津は我孫子市の手賀沼課主導で谷津ミュージアムの会、谷津学校友の会の皆さんが、谷津の保全に取り組んでいるが、その成果の現われの一つではないかと思っている。159頭ものホタルが乱舞するのは、幻想的な気分と共に壮観であった。岡発戸・都部の谷津がホタルの楽園になれば！と期待したい。

<参加者> 染谷迪夫、清水多恵子、松本勝英、松本葉子、松田幸保、間野吉幸、野口隆也、野口洋子、野村志津子、鈴木義雄、鈴木幸子、小館ゆき子、森智子、小林孝夫、鈴木静治、中根文世、中根実希、坪田大吉、坪田蓉子、桑森亮、弘美さと子、金子幸子、川越久枝、青木典子、川上貢、古川聖子、古川くるみ、天野正臣、天野睦子、工藤泰恵、工藤国明、野島裕、野島紀久子、天野牧子、天野かな枝、天野佑香 参加者 36名

(染谷迪夫)

納涼会

7月28日

7月28日(土)の映写会の後に恒例の納涼会が開催されました。まだ関東地方は梅雨が明けていませんでしたが、朝から蒸し暑く絶好のビール日和です。今年から場所を我孫子駅北口の「庄や」に変更し、3,000円の飲み放題で17時30分より始まりました。料理も豊富で、飲んで食って話もはずみ、予定の2時間があっと云う間に過ぎ、盛会のうちにお開きになりました。

<参加者> 野口隆也、松田幸保、田丸喜昭、間野吉幸、桑森亮、大久保陸夫、諏訪哲夫、榎本右、中野久夫、西巻実、松本勝英、鈴木静治、首藤佑吉、小玉文夫、吉田隆行、井上正、田中功、六角昭男、佐々木隆、染谷迪夫、北原建郎 計21名 (北原建郎)

7月幹事会報告

日時 7月8日(日) 13:30~16:30
場所 水の館 3F 研修室
議題

1. JBFの参加内容の検討と担当について
手賀沼のカラスさん(紙芝居)

庭に鳥を呼ぶ(展示方法の検討と担当)
パネル展示の内容と担当
定点探鳥会の場所の検討と担当
船上バードウォッチングについて
その他新企画

2. ほーほーどり 198号記載記事について

3. 検討事項
手賀沼流域フォーラムへの参加(内容と担当の検討)
我孫子第一小学校探鳥指導について
市民活動フェア参加について - 参加内容など

4. 報告事項

JBF実行委員会
第1四半期会計報告
手賀沼学会への出展(手賀沼のサギについてパネル展示)

(染谷迪夫)

手賀沼学会

中央学院大学で7月7日開催された第4回「手賀沼学会大会」でポスターセッション「手賀沼の水鳥 - サギ科の動向 -」を出展し間野会長と会員で手賀沼の現状をアピールしました。平岡さん(山階鳥研)の「手賀沼のヨシゴイの生態調査」の発表もあって皆さんの関心が多くサギの種類之多さと、その現状を知ってもらえたと思います。

(宮下三禮)

手賀沼流域フォーラム

7月28(土)千葉県立親水広場(水の館)で開催の「手賀沼流域フォーラム」主催:手賀沼流域フォーラム実行委員会(美しい手賀沼を愛する市民の連合会、手賀沼水環境保全協議会、我孫子市、柏市、(財)山階鳥類研究所)に参加しました。参加は3年目になります。流域フォーラムは全体で述べ3000人位が参加しました。(推定)今までに比べてかなり盛況に思われました。開催時期が夏休み中のせい、子供達の姿が目につきました。39の団体が参加しました。

当会はパネル展示と映写会の参加でした。パネル展示は「手賀沼のサギについて」2枚のパネルに示した内容は、手賀沼周辺に生息するサギ科7種類の鳥の年別、月別個体数の

種別変動です。また[集まれ！子どもたち]のセクション「水あてゲーム鳥あてゲーム」では染谷さんも鳥の解説を担当しました。映写会は当会の恒例の行事に一般市民の

参加という形で行いました。映写会については行事報告「映写会」(p6)をご覧ください。(染谷迪夫、榎本右)

スウェーデンでの探鳥記 2007 (続)

田丸喜昭

5月16日(水)

朝食後、ジェフたちが教えてくれた宿から近い西海岸のハガ パーク/ベイジェルシャン (HAGA PARK/BEIJERSHMN)へ行く。駐車して藪の中の道を抜けると、海岸近くに設置された観察台にでた。海岸の砂浜にはハイイロガン、シジュウカラガン(CANADA GOOSE)、ツクシガモ、ミヤコドリ、タゲリが多数群れている。

次のポイントの島の中央部東海岸にあるカペリューデン(KAPELLUDDEN)に向かう。駐車した場所の前の松林でチフチャフが飛び回り、キアオジ、岩の上で休むアジサシの夫婦、シジュウカラガンなどの写真も撮る。近くの杭に、私たちがノビタキと判断した鳥を見つけ写真。そこに、若い父親と息子の二人連れがきて、メリールイス(以下 ML)の望遠鏡で見せてあげると、父親が、これはマダラヒタキ (PIED FLYCATCHER)だと教えてくれた。宿泊小屋の屋根の下にニシイワツバメが巣作りに忙しい。周囲の草原にはヒバリが多い。ここのヒバリは、冠が高くたっているので、カンムリヒバリ(CRESTED LARK)ではないかと思ったが、帰ってから写真と図鑑を比べて良く見ると、顔つきはやはりヒバリであった。駐車場から遠くに見えるオグロシギ(BLACK-TAILED GODWIT)を見ていると、一羽が私たちの目の先の 10m ぐらいの場所に降り立ったではないか。そこで、パチパチとシャッターを押し続け、良い写真が出来上がる。

ヴァルナモ(VARNAMO)へ

長い橋を越えて、本土側のカルマー市をぬけ、約 200 キロ先の今夜の宿泊地ヴァルナモを目指す。ヴァルナモの町に入り、市の中心部にあるこれから二泊するホテルデザインホテル(HOTEL DESIGNHOTELLET)に到着。ここまで 979 キロ。

5月17日(木) 祝日

気温も低そうなので、重装備の冬服を着込み、雨合羽も取り出し、ML用にホテルから傘を借りて出発。

ストアー モーゼ国立公園(STORE MOSSE)

この国立公園は、カヴション湖(KAVSJON)と西に位置するドラヴェン湖とともに構成されている。湖周辺に広大な湿原が広がり、その中にいくつかの観察地点が設けられている。市の中心から国道 151 号線を走ると、道路脇に入口があるから、直ぐわかるはずだったが、表示がわからず、最初に行こうと思っていたオストラ ロックネ(OSTRA ROCKNE)を通り過ぎて、二番目に予定していたウイベックスレーデン(WIBECKSLEDEN)に入ってしまったことに気づかなかった。天候が悪いせいか、展望台からも歩いた森の中でも鳥の活動は静かだった。第三地点と予定したロヴォ(LOVO)へ。ここのコースの一つを進むと、最初に行ったウイベックスレーデンまで森林や湿原地帯を横切って歩くコースが設けられている。このコースを半分ほど歩き、車に戻る。次は、キトラックル(KITTLAKULL)で、この日最初に行った場所の、国道の反対側にあり、ロヴォからくる遊歩道の終点に当たる。

この日、出会った新しい鳥は、モリムシクイ(WOOD WARBLER)。雨天にも係らず、この日はかなり歩いたが、天候のせいで一枚も写真を撮らなかった。

5月18日(金)ドラヴェン湖からヴァドステーナ(VADSTENA)へ

朝、ドラヴェン湖に向かう。ここも、田舎道で迷い、どうにか一つの観察台に着く。実は、ここがどこであったかは、いまだにわからないが、多分ヴァックリンジ(VACKLINGE)と思われる。

牧場の柵をあけて、そこを通り抜け、湖岸の堤防の上に出る。ハイイロガンの群れが頭上を飛ぶ。近くには、クロヅルのつがいがかみを食んでいる。この湖周辺のその他の観察地点はあきらめてしまった。

国道152号線、高速E4を北上し、ヴァッテルン VATTERN という大きな湖の南端のジョンコピング JONKOPING を通過し、さらに湖岸東側の高速道路を北上し、オデショング ODESHONG の町で国道50号線におり、ヴァッテルン湖中央部東岸に近い自然保護区で探鳥地の一つのタケルン湖(TAKERN)の西岸の観察地点ヴァヴェルスンダ VAVERSUNDA に立ち寄る。ここは、湖岸の手前の広い湿原地が観察台の前に広がっていて、子連れのハイイロガンやタゲリが数多くいて、クロヅルが何羽か湿原で採餌している。ミサゴが飛んでくると、タゲリの親が急発進しモッピングをかける。水面に近い上空をヨーロッパチュウヒがゆっくりと舞う。下部が全体に灰色で、比較的細がたの両翼の先端が黒い大きなタカである。

ヴァドステーナは小さな町だが、中世以来の古い建造物が多い。ここでの宿は、ユースホステル協会の会員の27ans NATTLOGI で、従業員は常駐してはず、入口のドアと、部屋のドアは、あらかじめ連絡を受けていた暗証番号を入力して、立ち入るシステムだ。この町の小さな銀座通りを通り抜けて、この町には似合わない中世に建てられたヴァッテルン湖岸に聳え立つ大きな城と周辺の公園を散歩した。静かで、鳥の数も多い。

5月19日(土) タケルン(TAKERN)自然保護区

朝、建物の外に出ると、近くの木のでっぺんで、アオカワラヒワがチリチリ、ビュインとさえずっている。空には、ヨーロピアマツバメが多数飛び交っている。

第一のポイント、湖北部のスヴァリンジ(SVALINGE)。キアオジ、タシギ、日本のコヨシキリを連想させるスゲヨシキリ、子連れのハイイロガンなどの写真を撮る。湖面に浮かぶシマアジ、カンムリカイツブリ(GREAT CRESTED GREBE)、オカヨシガモ、シジュウカラガンの写真も。湖岸から離れた三つほどの小島の上には、多数のユリカモメとアジサシが押し合いへし合うようにかたまって抱卵中だった。

この後、東岸のホヴ(HOV)、南岸のグラナス(GLANAS)、昨日行った西岸のヴァヴェルスンダと回る。ここでは、サンカノゴイ(BITTERN)の姿は見なかったものの、ポワーン ポワーンと鳴き続けていた。

ホシハジロ(POCHARD)、羽の色が真っ黒に見えるニシセグロカモメ(LESSER BLACK-BACKED GULL)などを見る。午後は、快晴となり気温も17度ほどになり、冬服では暑く感じた。

この後、ヴァッテルン湖脇にあるオムバーグ(OMBERG)に向かう。ここは、湖岸の広大な山の中の森林地帯の中にある総合的自然教育公園である。国道から何キロか森林の中の曲がりくねった道を進むと、大きな駐車場に出て、その周辺に、管理棟、展示場、食堂、宿泊施設などがある。ここで軽い昼食をとり、森林の中を巡る2キロほどのコースを歩く。入口で、アカゲラ(GREAT SPOTTED WOODPECKER)、とキバシリ(TREECREEPER)に出会う。

5月20日(日)

朝、前々日行った、湖脇の城のそばの公園を歩く。湖面に、何つがいかのカワアイサ(GOOSANDER)が浮かんでいる。カモメも多数飛び回っている。

チェックアウトして、前日行ったオムバーグに向かう。歩き出す前に、展示場でこの周辺の歴史的発展の展示物を見る。鳥の生態も展示されていた。この日は、駐車場から山を歩いて下り、湖岸に近い森の中を周遊するコースをとった。このコースでは、鳥との出会いは少なかったが、チフチャフ、オジロビタキ、アオガラや、いつもの常連を眺め、上り下りをしながら3時間ほど歩いた。この日の気温も高く、18度まで上がった。

ヴァーバーグ(VARBERG)へ

山を下り、国道 50 号線、高速 E4 でジョコピングまで戻り、高速をおりて国道 40 号線を西に向かい、ボラス(BORAS)で国道 41 号線を南西にヴァーバーグまで約 280 キロの長距離を走る。ヴァーバーグに入り、駅前の繁華街とは反対側の海側で、駅のちょうど裏側に、私たちが二泊する予定のクラリオン コレクション ホテル(CLARION COLLECTION HOTEL FREGATTEN)があった。ここまでの合計走行距離は、1688 キロ。

5月21日(月) ゲテロン自然保護区とその他

西海岸のゴーゼンバーグ市から南へ約 150 キロ延びる海岸線はハランド海岸と呼ばれ、いくつもの自然保護地が点在している。ゲテロン自然保護区は、この海岸地帯の他の自然保護区の中心的存在で、この海岸線には海鳥の繁殖地が多い。

ゲテロン地区の入江の草原の広がりを中心に観察小屋に立ち寄ると、近くに、タゲリの親子 2 羽がいて、まだ、羽毛に包まれた雛が、私たちの方にゆっくりと近づいてくる。母親がそれに気づき、「そっちへ行っては危ないよ！ 戻ってらっしゃい！」と金属製の高い警戒音を発している。私たちは、この旅でタゲリの母親のモッピングの様子を記憶しているので、私たちがモッピングをかけられるかもしれないことに注意を払いながら、親子の写真をパチパチ。多数のハイイロガンの親子の群も多数いる。

ヴィジターセンターの建物周囲を歩いてみる。近くの藪から大きな美声が聞こえてきた。センターの職員に、この鳥のことをたずねるとサヨナキドリ(NIGHTINGALE)だと教えてくれた。ただし、彼の英語は、あまりうまくなかったので、日本に帰ってから、図鑑で調べると、分布図からヤブサヨナキドリ(THRUSH NIGHTINGALE)の可能性も高い。ここの管理者はマイケルノルドといい、ジェフの友人で、しばらく話をし、ハランド海岸の探鳥地の案内地図をもらった。さらに周囲を散策する。水面には、ハイイロガンの親子連れ、干潟には、ハイイロガン、ツクシガモ、ソリハシセイタカシギが固まって群れていて、その中のソリハシセイタカシギがとても小さく感じられた。アカアシシギも水辺で餌を食んでいる。葦原ではオオジュリンがさえずっている。

マイケルから貰った地図を頼りに、高速 E6 号を北上し、ゴーゼンバーグの南 30 キロにあるトジョホルム自然保護区(TJOLHOLM)へ行く。ここの観察台の上の小屋には、先客が一人いて、私たちは小屋の外で観察を始める。ユリカモメが集団で抱卵していて、茶色で小さな雛も何羽か見える。そこでは、まだ交尾をしているのもいる。現地では気づかなかったが、写真を見ると、抱卵しているユリカモメの頭は、黒でなく、紫がかかった色のものもいる。シジュウカラガンも多く、子連れもいる。圧巻だったのは、水面の遠くにシジュウカラガンの 7 羽の親が 70 羽以上の雛の縦長の長い列の前後や中ほどに分散して、一つの方向に移動しているところの写真を撮ったことだ。オオハクチョウ(WHOOPER SWAN)を一羽見かける。

次の観察地は、南下し原子力発電所近くのバタフィヨルデン(BATAFJORDEN)の海を見下ろす岩場に着く。ここには、鳥が少なく、近くの湿原に行く。ソリハシセイタカシギを観察し、その後、牧場の杭の上に、マキバタヒバリ(MEADOW PIPIT)がとまってくれて良い被写体となった。午後 4 時ごろ、ホテルに戻る。ここまで、1,809 キロ。

5月22日(火)

朝一番に、道を間違え、最初の目的地、ヴァーバーグに程近いガルタバック(GALTRABACK)を目指したのだが、すでに目的地を通り過ぎた地点にいたことがわかり、次の探鳥地のモラプス タンゲ(MORUPS TANGE)に向かった。ここでも、標識が良くわからず、集落の中を運転してまわり、やっと、灯台のある探鳥地の駐車場に入れた。ここではカモメが多数いたので写真。ムネアカヒワ、ホンケワタガモ、ミヤコドリなどの写真も。

次のカルストルプ(KALLSTORP)は整備が良くなく、現在改修中で成果はあまりなかったが、ヨーロッパコマドリ(ROBIN)の写真。

ブソール(BUSJÖR)を飛ばして、その次のパールプとトロンニンジ(PAARP and TRONNINGE)に向かう。再び道を間違え、トロンニンジ自然保護区へ入る道がわからず、次のパールプの集落へ入る。住宅地の海にぶつかったところに小さな駐車場を見つけて、砂浜を歩く。岩の

裏側で、カワアイサの母と雛を見つけて写真。ここが、この旅の探鳥の終点で、この日は、オオカモメ(GREAT BLACK-BACKED GULL)を一羽見かけた。

コペンハーゲン空港へ

この高速道路は、ゴーゼンバーグとマルモ、コペンハーゲンを結ぶ西海岸線に沿う幹線道路でこれを快適に南下し、国境の橋を渡り、コペンハーゲン空港でレンタカー返した。この旅の全走行距離は、2,125.8キロで、車の表示によると、9リッターで100キロ走ったと出ていた。(日本流に言うとリッターあたり11.1キロ走ったことになる)。

5月23日(水)

成田向けの飛行機は15時45分出発。シベリアの上空を飛行中、真夜中の飛行機の窓を少し開けてみると、北の方角に太陽が地平線の上で輝いていた。北極圏内と思われるので、高度10,000mから、真夜中の太陽を見たことになる。定刻より30分ほど早い、日本時間5月24日(木)の、午前9時過ぎに成田に到着した。

北欧三国では、高い率の付加価値税が課せられるので、諸物価が高いという感じだが、スウェーデンに行かなければ見られなかった鳥たちとの出会いは、その支払費用を上回る価値があったと思っている。完

会 員 便 り (ab-birdnet,ab-news より)

退会挨拶

永い間(1976年より今日まで)お世話様になりました。沢山の楽しい思い出が出来ました。渡辺会長、坂巻会長の頃がとても懐かしいです。今でも遊歩道を散策しながら鳥との出会いを楽しんでいます。去る3月6日(p m3:35)にはあやめの里辺りでこげら(小啄木鳥)のつがいと出会ううれいでした・・・が私共も高齢になりなりそろそろ退会を・・・考えるようになりました。今年度の入金でおわりとさせていただきます。よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。(伊藤哲夫 05/11)

ケリ

曙橋と浅間橋の間の田んぼの上空をケリ6羽が飛んでいるのを観察しました。

(中西榮子 08/02)

サンコウチョウ

5月からサンコウチョウを求めて柏市(旧沼南町)の斜面林周辺を歩いていますが、これまで声だけだったのが、ようやく私には初めてのサンコウチョウの姿に出会えました。思ったより小さく、高い樹木の間より上を移動していました。これまでもっと低いところを見ていたのですが、これが間違いでした。木が茂っているので、姿を確認するのは難しいのですが、木の上に止まっているのを確認できました。個体数は声の方向からすると複数はいらざるはず。鳴き方は、グイッと地鳴きのような声の後、ツキ・ヒー・ホシ・ホイホイホイホイと鳴いていました。その他はエナガ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワとお馴染みの面々のみでした。(桑森亮 06/17)

ヤマガラ

8/10と8/15にヤマガラそれぞれ1羽を鳥研で観察しましたので、ご報告します。10日は広報室の窓の外の水盤で水浴びをしましたのでよく見えました。15日は地鳴きだけです。昨年は8月下旬に声を聞いたように記憶しています。数は少ないですが、ここ数年秋の記録も年々早くなっているように思います。そのうち留鳥になるのでしょうか。そういうことの記録が鳥便りで刻々と取れればおもしろいですね。(平岡考 08/20)

(p 15 へ 続 く)

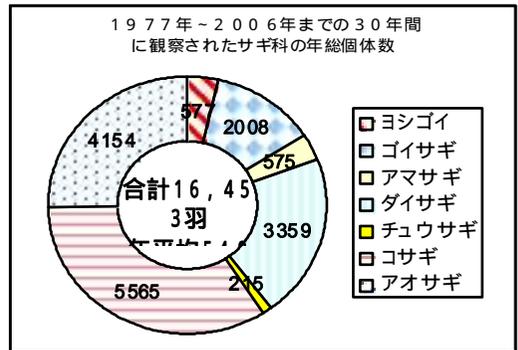
手賀沼周辺のサギの動向（30年間の観察記録より）

間野 吉幸

我孫子野鳥を守る会は、1977年1月より30年以上に亘り、毎月1回定点観測（柏市側：上沼3地点、下沼3地点）を続けている。この報告は2006年12月までの30年間に観察された記録を基に、手賀沼周辺のサギ科の動向について考察をして見た。

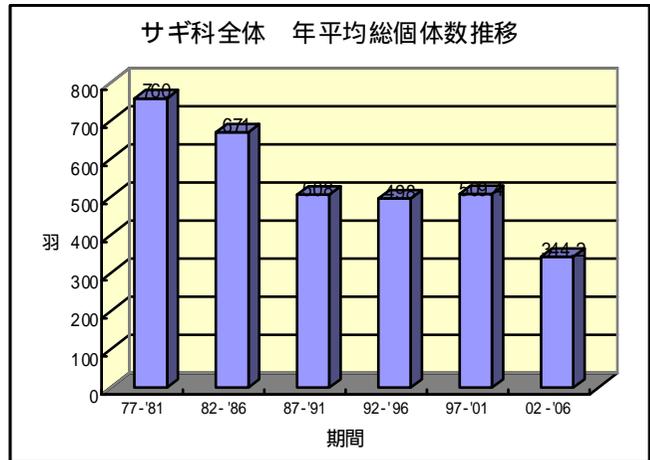
観察されたサギの種類

手賀沼とその周辺で30年間に観察されたサギは7種、年総個体数は16,453羽であった。多い順にみると(1)コサギ(5,565羽)、(2)アオサギ(4,154羽)、(3)ダイサギ(3,359羽)、(4)ゴイサギ(2,008羽)、(5)ヨシゴイ(577羽)、(6)アマサギ(575羽)、(7)チュウサギ(215羽)であった。上位3種で約8割近くを占めている。

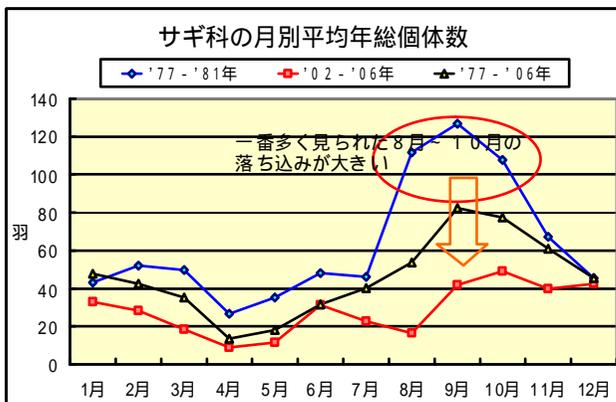


サギ科全体の年総個体数の推移

サギ科全体の年総個体数の推移は1978年の1,101羽が最も多く、2003年が304羽で最も少なかった。サギ科全体の動向は、増減を繰り返しながら減少傾向にある。これを5年単位の年平均総個体数で推移を見ると、1987年 - 1991年から1997年 - 2001年までは、ほぼ横這いであった。直近の2002年 - 2006年が大幅に減少し、年総個体数が400羽を下回っている。因みに年総個体数が400羽を下回ったのは、2001年以降からである。



サギ科の月別平均年総個体数



手賀沼のサギ科全体の月平均年総個体数は、月別に変動が見られる。多く観察された時期は、8月から11月に掛けてである。繁殖を終えた時期に手賀沼ではサギが増加していた。他所で繁殖をしたサギが手賀沼に寄ったことも考えられる。これを最も多く観察された期間（1977年 - 1981年）、最も少なかった期間（2002年 - 2006年）と30年間全体の月別平均年総個体数の変化を見てみた。

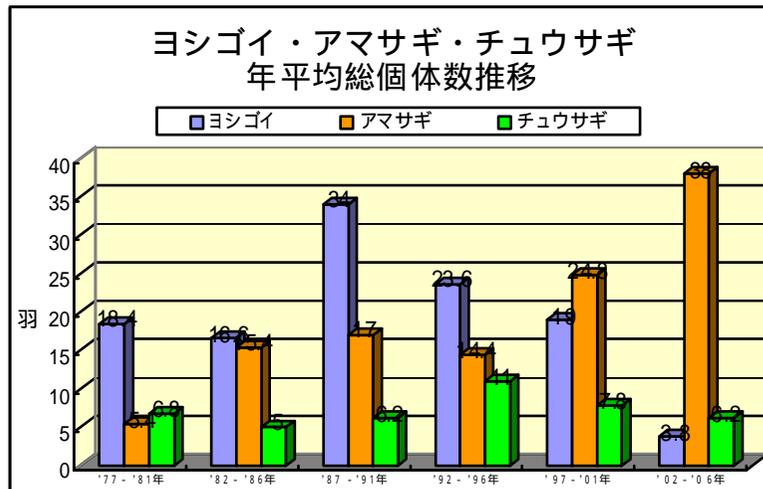
1977年 - 1981年と2002年 - 2006年を比較すると、全ての月で2002年 - 2006年が減少している。特に一番多く見られた8月から10月の落ち込みが大きい。

夏鳥として手賀沼に飛来するサギの動向

夏鳥として手賀沼に飛来するサギは、ヨシゴイ、アマサギ、チュウサギである。

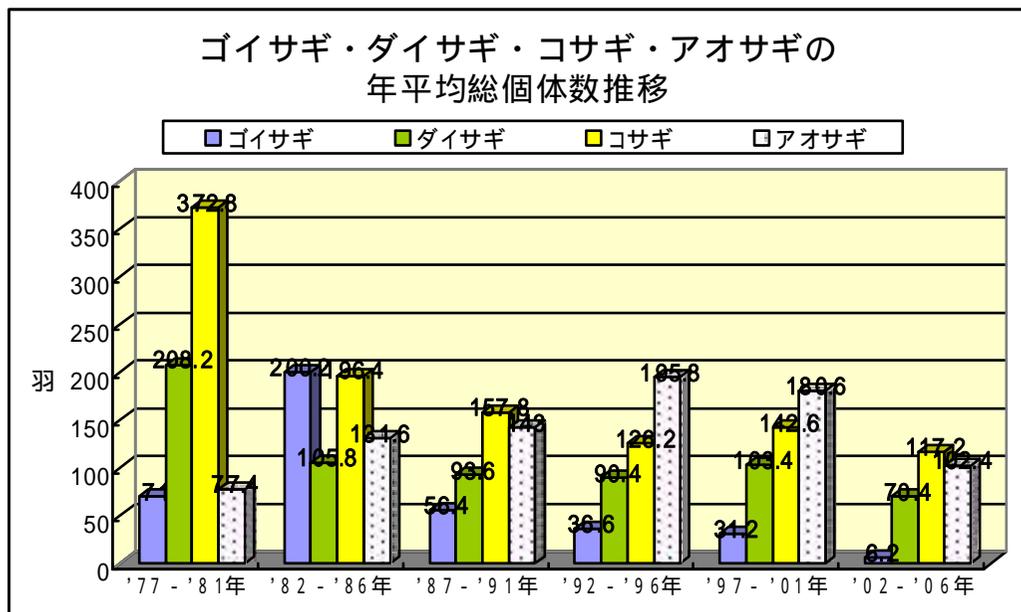
右図は、5年単位に年平均総個体数の推移を表したものである。三種三様の傾向にある。

- (1)ヨシゴイは2002年以降大幅に減少した
- (2)アマサギは増加傾向にある。
- (3)チュウサギはほぼ横這いの傾向にある。



一年を通して手賀沼で見られるサギの動向

一年を通して手賀沼で見られるサギは、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギの4種である。これらのサギは手賀沼では減少傾向にある。

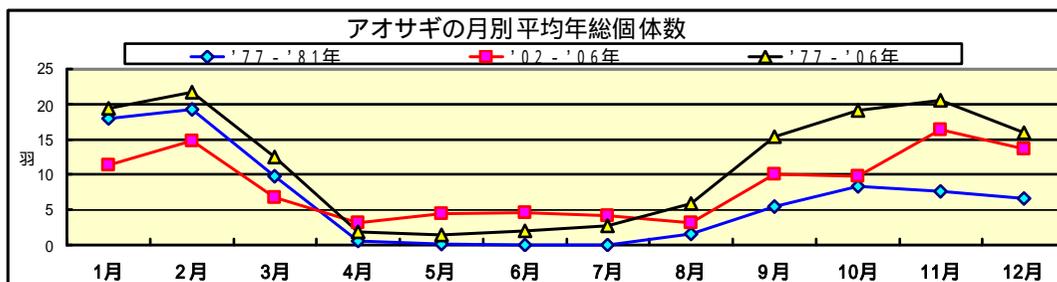
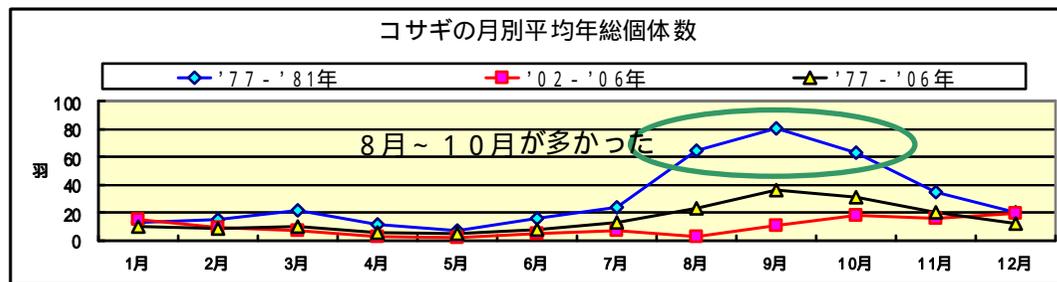
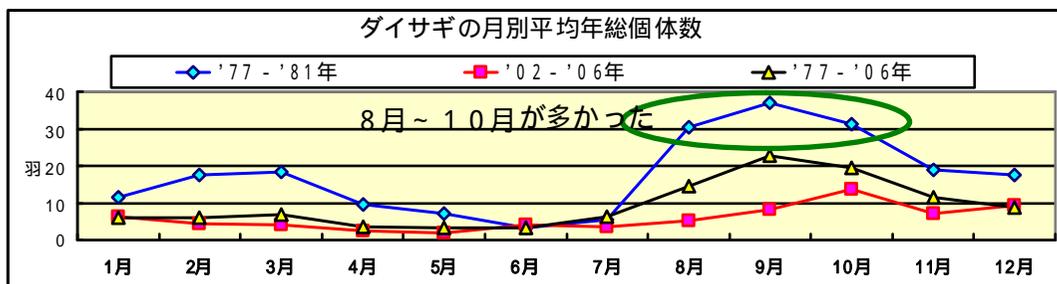
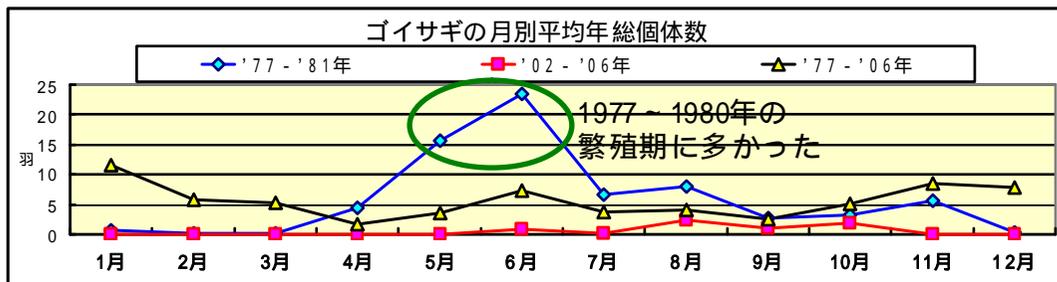


- (1)ゴイサギは、1982年～1986年をピークに減少傾向にある。特に2002年以降大幅に減少した。
- (2)ダイサギは、1982年～1986年から1997年～2001年にかけてはほぼ横這いで推移していたが、2002年～2006年で減少した。
- (3)コサギは、1977年～1981年をピークに減少傾向にある。
- (4)アオサギは、1997年～2001年までは、全体として増加傾向にあったが、2002年～2006

年で減少した。

このサギたちを月別に見てみる。30年間のデータを30年間合計、最初の5年間、最近の5年間に分け、その月別平均年総個体数の変化を見てみた。

- ・ゴイサギは、最初の5年間は、繁殖期に多かったが、その時期の個体数が激減した。
- ・ダイサギ、コサギの月別出現傾向は同じである。繁殖時期を過ぎた8月～10月に多く観察されたが、最近はこの時期の個体数が激減した。
- ・アオサギは、ゴイサギ、ダイサギ、コサギとは別の傾向にある。最近では4月～7月の総個体数がやや増えているが、他の月の総個体数よりも少ない。



以上の傾向を纏めてみると、繁殖期に多く見られたゴイサギの減少、繁殖後の8月～10月に多かったダイサギ、コサギの減少が手賀沼全体のサギ科の減少に繋がっている。

サギ科の生息条件と年総個体数の関係

我孫子市鳥などの自然環境調査手法研究会報告書(1999年 我孫子市手賀沼課) 斉藤安行氏によると手賀沼周辺のサギの仲間の生息条件は下表のように分類されている。

手賀沼周辺のサギ科の生息条件

分類	種名	餌	営巣場所	休息場所
サギの仲間 1	ダイサギ コサギ アオサギ ゴイサギ	おもに沼の魚	水辺の樹林	水面(含む杭の上など)、中洲
サギの仲間 2	チュウサギ アマサギ	水田の小魚、カエル、甲殻類、昆虫など	水辺の樹林	水田や水辺の樹林
サギの仲間 3	ヨシゴイ	沼の魚、水田の魚、カエル、甲殻類など	ヨシ原	ヨシ原

斉藤安行氏の分類に上記データを重ねて見ると主に沼の魚を餌とするサギの仲間1と3が減少し、沼の魚に頼らないサギの仲間2は横這いしないし増加している。年総個体数の大きな変化が2001年から始まった。この年は北千葉導水事業が始まった年で、手賀沼のCODが改善し全国ワースト1を脱却した時期と一致する。この時より沼の環境が変化し、従来の数のサギを支えるだけの魚が、手賀沼にはいなくなったと推測される。

昨年の夏、曙橋で、水の入った休耕田には沢山のアマサギとチュウサギが集まり、昆虫等を採餌していた。しかし一週間後の水を落とした同じ田んぼには、一羽もいなかった。水と餌の関係を物語る光景であった。

手賀沼のサギが増えるには、魚の増加を待たなければならない。今は沼の豊かさが失われている。現在の手賀沼は川みたいになってしまったと言われている。手賀沼が綺麗で沼らしい生態系が復活して、水鳥が手賀沼に戻って来ると思う。

参考文献: 我孫子市鳥などの自然環境調査手法研究会報告書(1999年 我孫子市手賀沼課)
: 手賀沼の水鳥 30年の変遷データ集(2007年 我孫子野鳥を守る会)

(p11より続く)

会 員 便 り (ab-birdnet, ab-news より)

コブハクチョウの幼鳥の色について

発 端

手賀沼でコブハクチョウの幼鳥が7羽育っており、黒褐色が5羽、白色が2羽です。黒褐色もその内に白くなる筈ですが現在白い方はマダラには見えず全身綺麗な白色です。いつ頃からこうなったのか時系列的な観察ができていないので恥じ入る限りですが昨日、手賀沼散歩の折、餌を投与中の婦人に白と黒の違いを質問している人がいました。婦人は即座にそして実に堂々と答えました。「白がメスで黒がオスです」と。これは私の脳内辞書に無いことだったので大いに驚きました。急ぎ帰宅して手元の鳥関係の本を数冊調べましたが幼鳥の色彩の違いについて記した文章は見当たりませんでした。ご婦人の答えの真否は如何。ご意見をお待ちしています。

時田さんからのご返事

コブハクチョウの新見解、(*_*); ですね^^コブハクチョウの仔どもの白は、産まれたときから白(ポリッシュタイプ)のもので、遺伝的2形のもので。コブハ

クチョウの子ども(黒(灰色)は、産まれたときは黄色の普通のタイプです。この白、ポリッシュタイプは遺伝的劣性と云うわけではないようです。飼育下だとか、近親交配が進んだ結果だとか云われていますが、私には分かりません。申し訳ありません。よって白は、黒がと云うわけではありません。脳内辞書に無いはずで、私の壊れた脳内辞書でもありません(^_-)

齊藤学芸員によるとポリッシュとはポーランドの、と言う意味があり、もう一つ「洗いざらし」と言う意味もあります。私の理解では、普通産まれるハクチョウの雛は黄色ですから、意外と「洗ったような白」の意味で使われているかも知れません。飼育下でポリッシュタイプが多くなると書きましたが、このような事が、家禽のアヒルとかニワトリのと白がいるのも関係がありそうですね

平岡さんからのご返事

コブハクチョウのヒナの白と灰色ですが、ものの本によると、これは雌雄の違いではなく、同じ親から、白と灰色が生まれる「遺伝的多型」というものです(もちろん雌雄の違いも同じ親から両方生まれるわけで、広い意味での遺伝的多型ですが)。図鑑には、コノハズクに灰色型と赤色型があるのが描いてありますが、これも同じ親から赤と灰色が出る可能性があるわけで、こういったものと同じです。人間ではたとえがなかなかしづらいですが、たとえば血液型で、A型の親とB型の親からは、A型、B型、O型、AB型などいろいろの子供が生まれる可能性があるのと似ているかもしれません。

「亜種」というのは地理的な差異ですので、同じ親から生まれるこういった多型は、「亜種」ではありません。

コブハクチョウの白いヒナのことをポーリッシュPolish(=ポーランドの)ということがあるそうですこれは、ヨーロッパでは東に行くほど白色型のヒナが多くなることから、白色型を「ポーランドの」と呼んだもののようです。ポーリッシュと灰色のコブハクチョウは大人になるとほとんど区別できませんが、足の色などがポーリッシュの個体はちょっとピンクがっかっています。この点で、完全に成鳥になったときでも区別できるそうです。

(編集：首藤 08/09)

鳥 だ よ り

- | | | | |
|----------------------------|-----------|-----------------------------|------|
| 05.21 [北新田] ヒ (2) 物色飛翔 | | | 志賀鉄雄 |
| | 中野久夫 | 05.24 [柳戸] ヲコチヨウ (1) 囀り | |
| 05.21 [北新田] ヲコチヨウ (1) 物色飛翔 | | | 志賀鉄雄 |
| | 中野久夫・金成典知 | 05.25 [金山] ヤマガラ (1) 声 | 志賀鉄雄 |
| 05.23 [手賀新田] チウギ (1) 採餌 | | 05.25 [柳戸] ホトトギス (1) 声 | 志賀鉄雄 |
| | 志賀鉄雄 | 05.26 [泉] ヲコチヨウ (1) 谷津斜面林の中 | |
| 05.23 [布瀬] ヒメ (1) 囀り | 志賀鉄雄 | から囀り | 桑森亮 |
| 05.23 [北新田] カウ (1) 河川敷で鳴き | | 05.26 [片山手賀の丘公園] ヒメ (1) 囀 | |
| 声 | 中野久夫 | り | 桑森亮 |
| 05.24 [藤ヶ谷] ヒメ (1) 囀り | | 05.26 [鷺野谷] アバズク (1) 横枝に | |

- 05.27 [泉] ヤガラ(1) 谷津斜面林で地鳴き 志賀鉄雄 桑森亮
- 05.27 [中峠利根川ゆうゆう公園] コシ判(2)オギ原で囀り 志賀鉄雄 桑森亮
- 05.27 [金山] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄
- 05.28 [手賀] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 05.29 [大津ヶ丘1丁目] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 05.29 [手賀] チウギ(11) 採餌 志賀鉄雄
- 05.29 [布瀬] ヤガラ(1) 声 志賀鉄雄
- 05.29 [布瀬] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 05.29 [若白毛] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 05.29 [北新田] 牝(1) 河川敷で鳴き声 中野久夫
- 05.29 [戸張新田] コシ判(1)オギ原で囀り 中野久夫参加者 19名
- 05.29 [呼塚新田北柏ふるさと公園] タシキ(4) 親 1・幼鳥 3 水田で採餌 中野久夫参加者 19名
- 05.30 [泉] アバズク(1) 声 志賀鉄雄
- 05.30 [泉] サバ(1) 飛び立ち 志賀鉄雄
- 05.30 [泉] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄
- 05.30 [泉] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 05.30 [片山] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 05.31 [久寺家] コシ判(3)親 2・幼鳥 1、駐車場 中野久夫
- 06.01 [岩井新田] 犬(1) 声 志賀鉄雄
- 06.01 [大島田] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 06.01 [片山] アバズク(1) 声 志賀鉄雄
- 06.01 [片山] サバ(1) 電柱上に 志賀鉄雄
- 06.01 [布瀬] オカ(1) 立ち枯れ木の天辺に 志賀鉄雄
- 06.02 [岩井] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 06.02 [布瀬] サバ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.02 [若白毛] 牝(1) 囀り(2箇所) 志賀鉄雄
- 06.02 [若白毛] フカウ(1) 低木より飛び去る 志賀鉄雄
- 06.02 [若白毛] ノリ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.03 [大井新田先手賀沼] コシ判(1) 耕地を鳴きながら移動していた 飯泉仁
- 06.03 [片山新田先手賀沼] チウギ(1) 水田で採餌をしていた 飯泉仁
- 06.03 [鷺野谷新田] チウギ(3) 採餌 志賀鉄雄
- 06.04 [東中新宿] 牝(1) 8:22、自宅上空を鳴きながら通過 飯泉久美子
- 06.04 [藤ヶ谷] チウギ(1) 採餌 志賀鉄雄
- 06.04 [藤ヶ谷] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 06.05 [泉] コシ判(1) 畑の上、飛び回り 降下 志賀鉄雄
- 06.05 [手賀] サバ(1) 斜面林に止まる 志賀鉄雄
- 06.05 [手賀新田] 犬(1) 声 志賀鉄雄
- 06.06 [布瀬] サコチヨウ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.08 [柳戸] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.09 [泉] 材効(1)谷津斜面林の枯木の 上に 桑森亮
- 06.09 [大井] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 06.10 [手賀狸穴下谷地] サバ(1) 手賀沼方向から出現し電柱に止まった後手賀の丘公園方向に渡去 飯泉仁
- 06.10 [柳戸] 材効(1) 7:55、林の木の天辺に止まり、見張りをしていた 飯泉仁
- 06.11 [布瀬] チウギ(6) 採餌 志賀鉄雄
- 06.11 [柳戸] チウギ(3) 採餌 志賀鉄雄
- 06.12 [手賀] ヤガラ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.12 [藤ヶ谷] サコチヨウ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.12 [藤ヶ谷] サバ(1) 杉の天辺に 志賀鉄雄
- 06.13 [金山] 牝(1) 声 志賀鉄雄
- 06.13 [布瀬] サバ(1) 林へ 志賀鉄雄
- 06.13 [柳戸] サバ(1) 林の影へ 志賀鉄雄
- 06.13 [手賀沼] 比(1) 下沼 染谷迪夫・木村稔・北原建郎・佐々木隆・田中功。
- 06.14 [片山新田] チウギ(5) 採餌 志賀鉄雄
- 06.14 [箕輪] アバズク(1) 電線に 志賀鉄雄
- 06.14 [鷺野谷] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.16 [若白毛] フカウ(1) 飛翔 志賀鉄雄

06.17	[片山新田地先]	比 ^レ (1)	手賀沼上空飛翔	桑森亮
06.18	[高野山]	アバズク(1)	姿と鳴き声	小林さやか・浅井芝樹
06.18	[手賀沼下沼]	ヨゴイ(1)	飛翔	志賀鉄雄
06.19	[金山]	サバ ^レ (1)	電柱上で物色	志賀鉄雄
06.20	[手賀沼下沼]	木枕カ(1)	葦の下で声	志賀鉄雄
06.25	[片山]	コドリ(1)	畑の上を飛ぶ	志賀鉄雄
06.27	[布瀬]	ノリ(1)	木の天辺に	志賀鉄雄
06.27	[藤ヶ谷]	カウ(1)	木に止まる	志賀鉄雄
06.30	[鷺野谷]	ホトギス(1)	声	志賀鉄雄
07.01	[片山新田先手賀沼]	コアシサシ(16)	沼の水面で採餌	飯泉仁
07.01	[手賀・山中下谷地]	ホトギス(2)	林の中で囀っていた	飯泉仁
07.01	[手賀・山中下谷地]	サバ ^レ (1)	上空を鳴きながら通過	飯泉仁
07.02	[泉新田]	チュウサシ(1)	採餌	志賀鉄雄
07.06	[中原ふれあい防災公園]	ホトギス(1)	9:12、防災公園上空を鳴きながら旋回していた	飯泉久美子
07.08	[手賀沼]	チュウサシ(4)	上沼3、下沼1	染谷迪夫・木村稔・佐々木隆
07.08	[我孫子]	ホトギス(1)	斜面林で鳴き声	中野久夫
07.13	[つくし野]	ホトギス(1)	5時ごろ鳴き声	中野久夫
07.15	[東中新宿]	カ(2)	13:21、鳴きながら自宅上空を通過し、近所の林の中に入っていた	飯泉久美子
08.02	[曙橋]	ケリ(6)	飛翔	中西榮子

今回の観察者の総投稿件数	
飯泉久美子	8
飯泉仁・久美子	15
飯泉仁	311
桑森亮	13
小林さやか・浅井芝樹	2
志賀鉄雄	285
染谷迪夫・木村稔・北原建郎	
佐々木隆・田中功	11
染谷迪夫・佐々木隆・木村稔	13
中西榮子	1
中野久夫	23
中野久夫・金成典知	4
中野久夫他	3
総計	689
(諏訪哲夫)	

9月幹事会開催案内

日 時 9月9日(日) 13:30~
場 所 アビスタ1F 工芸工作室
議 題

1. JBFの行事及び担当者の確認
2. 幹事の担当業務の確認
3. 会報199号掲載記事について
4. 報告事項
5. その他(議題を提出場合は事務局にご連絡ください。)

新会員紹介

弘實さと子(我孫子市)
横濱由利(東京都目黒区)

ほーほーどり No198 2007年(9 ~ 10月号)

発行 2007年9月1日
発行人 我孫子野鳥を守る会 会長 間野吉幸
編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮
事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04 7182 3972
振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会
会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)